

私たちはシルクロードに植林

北谷 勝 秀

1. はじめに

日常会話の中に地球温暖化や異常気象などという言葉が交わされるようになり、マスコミで報じられるニュースでも旱魃、サイクロン、大水害などで人命に対する被害、穀物不作などが頻繁に取り上げられている昨今の状況に接していると、地球や子どもたちの将来が心配になってくる。

中国における環境問題は、中国の人たちの問題であるのみでなく、大気汚染や黄砂という形で日本に様々な影響を与えている。そして、地球温暖化は未来の子ども達のためになんとしても防止しなければならない。日本の市民として何が出来るだろうかと考えたとき、私たちの結論は、シルクロードを緑化しよう。そして、地球温暖化防止、中国黄土高原の緑化にいささかなりとも貢献し、日中両国の将来のために一肌脱ごうということであった。

2. 黄土高原

黄土高原は北京の直ぐ西側から山西省、陝西省から寧夏回族自治区、甘肅省東部などにかけて広がる台地で荒廃地が多くみられる。西安を基点として、この黄土高原の西部を横切って、敦煌やカシュガルを通り、ローマまで通じているのがシルクロードである。東西文明の架け橋であり、われわれ日本人のロマンと夢をかきたててくれる。黄土高原は全体的に年間降雨量が400mmに満たないという乾燥地帯で、大地を覆うはずの樹木が殆どなく、ひとたび雨

が降ると表土が流失し、大地は崩落する(写真1)。それによって砂漠化が進み、人命と財産が損なわれるという悪循環を繰り返している。この悪循環を断ち切るには植林しか手段がなく、政府は「退耕還林」政策を打ち出し、植林を奨励しているが成果はそれほど上がっていない。そこに住む人たちは、異常気象、黄砂、水不足、貧困などに生活を脅かされつつ、ただ生き延びることに必死になっている。私たちが植林地一つとして選んだ陝西省榆林市では2007年には一部にフットボール大の雹が降り、人畜に多大な被害を与え、作物をなぎ倒してしまった。そして、多くの人が「環境難民」として故郷を捨てて移住を余儀なくされている。もう一つの植林地、甘肅省の通渭県は中国の中でも一番貧しいとされている地区で、農民の年間平均収入はわずか400元から1,000元(邦貨にして約6,400円から16,000円)と、貧困ライン以下の生活を強いられている。更に、黄河の流域では食糧生産のために灌漑農法が盛んに行われ、そのために、地下水位が急速に低下したり、時には黄河そのものの「断流」が起こったりで、極端な水不足に悩まされている。水の問題だけを取り上げても、植林が有効な対策であることには疑いがない。

3. (特活) 2050 の環境保全活動

以上のような背景のもと、特定非営利活動法人2050では過去12年間にわたり、中国各地で環境保全のための活動を行ってきた。先ず、中国国民に環



写真 1 黄土高原の荒廃地



写真 2 沙棘（サジー）の実

境に対する正しい知識を身につけてもらおうと、主要都市で講演会を開催した。特に、西安では、西安市内の大学に働きかけ、地球温暖化と砂漠化防止のためのワークショップを数年にわたり開催し、各大学の緑化サークルの学生たちと精力的に啓発、植林活動を行った。その後は、省レベル、市や県レベルの人民政府と交渉して、「シルクロード」の植林活動に着手したが、お互いの目的や価値観のずれで、思いうような成果を得ることができなかった。つまり、こちらは砂漠化防止、緑化を目的としているのに、相手の狙いは客寄せの造園であったり、唐代皇帝の

陵墓の再建であったりする。または、現金収入を狙っての果樹の植林希望でもあったりする。したがって、2050では農民を主体とした、自助努力による植林に切り替え、2003年度からはシルクロード出発点近くにおいて活動を展開した。中国での植林というと、杏、棗、榆、油松、コノテガシワ、エンジュなどを植えたがる。そこで私たちは国連や中央政府に問い合わせ、乾燥と寒暖の差に強く、広く根を張り、表土を押さえ、空気中の窒素を地中に固定するという沙棘（サジー、*Hippophae rhamnoides*）というグミ科の灌木を採用することにした（写真2）。これは中国在来種で、黄土高原の植林にお誂え向きのものである。おまけに、その果実は漢方薬の原料になり、豊富なビタミンCとEを含有するために日本では健康飲料として販売されている。植林後3-4年で実の採取が始まることから、農民の貧困解消にも役立つという有難い樹である。

前述のように2003年までは試行錯誤を繰り返し、ようやく農民を率いて黄土高原の緑化をしている指導者にめぐり合ったものの、その後2年間は黄土高原という場所での植林について大いに勉強をさせられた。最初はコノテガシワの類の植林で、良く根付き、成長も良かった。でも、これはデモンストレーション用の土地で、水を撒布できる場所であったのだ。いったん高地に植林を始めると、根付くかどうかは植林後の降雨量に左右される。どのような苗木を購入するか、どういう方法で植栽をするかなどの知識がないと、せっかく植林をしても活着率がよくないのである。

2004年度からはコスモ石油エコカード基金の助成を受けて陝西省における植林活動を継続したが、沙棘の植林に関する限り、満足すべき成果を得ることは出来なかった。さらに、農民指導者が病気になって植林を継続することが非常に難しくなった。

4. 中央政府の政治的支援

そんな時、私たちの試行錯誤を見かねて、助言を与えてくれたのが中国人口福利基金会（中国官製のNGO）の苗霞会長である。彼女は「中国ではしかる

べき政府機関を介入させることで事業が旨く行く」ということで、自分の出身地、甘肅省の林業局を紹介してくれた。甘肅では1980年代から植林を精力的に行い、沙棘の植林でも実績があるという。わたしたちは早速甘肅省に赴き、政府関係者と協議をし、私たちの受け入れと、農民を動員してくれる責任者を任命してもらった。かくして、省政府レベルの政治的、技術的支援を確保し、自助努力による緑化活動の体制が整ったのである。さらに、中国人口・計画育成協会と福利基金会在私たちの植林活動に積極的に参加し、人口福利基金会在各政府機関との調整や活動のモニタリングや評価も引き受けてくれることとなった。

黄土高原における植林には、植林に先立って十分な整地を行う必要がある。山の急斜面に植林をする場合は柵地を造り、そこに、魚鱗坑と呼ばれる植林用の穴（約30×30×30cm）を用意し、場所によってはそこにビニールの覆いをかけたりする。植林後は活着や成長はその後の降雨量に左右されるので丹念な見回りと手入れが必要である。ただ植えっぱなしでは、植林は成功しない。植樹に使う苗木も、種から発芽させたものを使うか、または、挿し木によってつくったものを使うかで大きな差が出てくる。多くは挿し木を使いより根付きやすくなるようにしている。いずれにせよ、私たちは大いに勉強をさせられた。

5. 植林ツアー

私たちは毎年4月と10月に、黄土高原自然環境保護、住民の貧困削減、日中友好を目的として、希望者による植林ツアーを送り込んでいる（写真3）。2007年度には、甘肅省で165,000本の植林を、陝西省では90,000本の植林を行った。甘肅省植林分のうち、15ヘクタールに植林した45,000本は（社）国土緑化推進機構の支援によるものである。

沙棘植林作業の主体は現地農民で、自分たちで植林をし、私たちはそのお手伝いをするという建前である。農民たちも自分たちと手で緑化をし、それが現金収入にもつながるということで喜んで働いてい



写真3 植林ツアー参加者（2007年10月）



写真4 ともに汗を流す地元高校生との植林作業

る。さらに、生まれて初めて接する外国人が日本から来たということで、珍しくもあるし、言葉と習慣が少し違うだけで後は同じという発見で、非常に友好的に共同作業が捗っている。特に、2007年10月に一緒に作業をした高校生は「今まで肉を食べたことがない、テレビも普段見ることがない」と洩らし、その貧困の一端を垣間見ることができたが、ともに環境保全のために汗をながすという喜びに輝いていた（写真4）。

私たちは現在、甘肅省においては、（社）国土緑化推進機構、コスモ石油エコカード基金の助成をうけ

て植林作業を継続させてもらっている。そのほかに、会員に働きかけて、一口6,500円で苗木200本と1畝(ムー, 667平方メートル)の整地・管理費をまかなってもらうキャンペーンも行っている。できるだけ良質の苗木を確保しよう、農民に自分たちで自分の国土を守るのだという意識を植え付ける努力の一端である。

また、中央政府と省政府双方に太いパイプが出来たお陰で、私たちの活動は良く中央テレビや地方テレビの報道の対象となる。思いがけない余禄である。

6. 今後の活動

ようやく私たちのシルクロード緑化活動も緒についたというのが現在の偽らざる感情である。これからは、今まで学ばせてもらった教訓を如何に活かし、今後の植林活動に備えるかということが大切である。

何しろ、天候に大きく左右されるのが黄土高原に

おける植林である。まずは苗木基地を充実し、データもきちんと揃えて、良質の苗を確保することが求められる。幸い甘粛省に設けた基地ではすでに60万本の苗木を育成中であり、やや楽観視も出来るが、陝西省における植林ではこれから苗木基地の建設に着手する予定である上に、支援をしてくれるスポンサーも新たに探さなければならない。幸い、農民たちはやる気十分だ。彼らを引っ張っている指導者の質も態度も申し分ない。今後の活動を是非継続したいと考え、気持ちを引き締めている。

植林後の管理状態をモニターすることもなおざりにはできない。そのために、2050中国代表、孫若恒氏、中国福利基金会、及び2050職員に依るきめ細かな視察と打ち合わせが欠かせない。

私たちの陝西省における活動を継続し、シルクロード沿いの様々な拠点に植林をして緑化することに夢が膨らんでくる。一刻も早く黄土高原での砂漠化を止め、緑化によって農民の貧困削減に役立つことを祈る毎日である。

「海外の森林と林業」購読について

★年額 2,500円(「海外の森林と林業」3冊分、付録;「緑の地球」4冊贈呈)

購読契約は会計年度毎(4月から翌年3月まで)で、申込書(住所、氏名、電話番号、雑誌送付先(住所と異なる時)、冊数を明記)をFaxでお送りください。

なお、「海外の森林と林業」は年3号で6月、9月、1月発行、「緑の地球」は年4号で6月、9月、1月、3月発行。購読料を1年間滞納された場合、契約は自動解除となります。

★送金先 下記銀行口座又は郵便振替にて、ご送金ください。

振込先銀行:三井住友銀行 小石川支店 (店番号813) 普通口座 2527408

名義人 財団法人 国際緑化推進センター

郵便振替口座:00160-5-139657 名義人 財団法人 国際緑化推進センター

★申し込み問合せ先

財団法人 国際緑化推進センター 大高久一

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル3階

Tel: 03-5689-3450 Fax: 03-5689-3360

e-mail: jifpro@jifpro.or.jp (表題を「海外の森林と林業」購読 と明記ください。)